

「違う」って何？

はじめに

『「知らない」、「考えない」、「関心を持たない」ということはとても怖いことである。』私が、アドバンスコースに参加し、感じた一番大きな感想である。しかし、裏を返せば、「知っている」、「考えたことがある」、「関心を持っている」ということが、人生を豊かにし、可能性を広げられるということを学んだ。この学びのプログラムは、「多文化共生」や「多様性」、またもっと身近な「自分とは違う人」について考えるきっかけになればという思いで作成した。最初の一步はとても勇気がいるし、怖いものである。そんな最初の一步の手助けになればいいと思う。

全体のねらい

「違う」をキーワードに、自己の価値観を見つめ直し、これからの行動に生かす考えを持つ。

学習計画（全4～5時間）

- (1) グループに分かれてみよう！
- (2) 「違う」って何？

教科・領域との関係

特別の教科道徳、学級活動、総合的な学習の時間

アクティビティ1 「グループに分かれてみよう！！」

●概要

自分自身がグループに分かれる体験をする。ゲームの性質上、簡単にグループ分けできないことから、一度形成したグループを崩したり、何度も試行錯誤しながら行う必要がある。一人ひとりがグループを作るために発言すること、そしてグループのメンバーがその発言をしっかり聴くことが重要である。

●ねらい

グループ分けを通して、自己の価値観に気付き、排他性について考えることができる。また、他者との交流を通して、自己の価値観を再定義することができる。

●主な対象

小学生以上

●用意するもの

数字の書かれたカード、ワークシート①（P12～13）

●所要時間

50分（小学生の場合45分）

●おすすめ方

| 学習活動・内容・問いかけ | 留意点（ポイント） |
|---|--|
| <p>1. 足して 100 ゲーム 「足して 100 になるグループを作ってください。」 一人につき 1 枚ずつカードを配布する。カードに 書いてある数字を足して 100 になるようにグ ループを形成する。</p> | <p>資料 1 「足して 100」 カードの組合わせ上、何度かグループを再編しな ければ完成しない。対象者にはグループの再編成 の困難を味合わせる。</p> |
| <p>2. ふり返り ワークシート①を全員に配布し、その問いを各自 で考え、記入する。</p> | <p>1 時間の学習をふり返る。</p> |

資料1 「足して100」

(拡大コピーし、切り離して使用してください)

※学習者が3で割り切れない場合は、助言者として役割をあてるなど工夫する。

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|----|----|----|----|----|
| 80 | 50 | 90 | 60 | 40 |
| 10 | 25 | 5 | 20 | 30 |
| 10 | 25 | 5 | 20 | 30 |

| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|----|----|----|----|----|
| 70 | 60 | 55 | 80 | 75 |
| 15 | 30 | 5 | 5 | 20 |
| 15 | 10 | 40 | 15 | 5 |

ワークシート①

()年 ()組 氏名()

振り返ってみよう！

足して100ゲーム

Q：あなたはゲームの中で発言しましたか？ (はい ・ いいえ)

理由

Q：あなたはゲームの中で始めから同じグループでしたか？

(様々な人とグループを入れ替わりましたか?) (はい ・ いいえ)

その時の気持ちを教えてください。

グループ分けをしよう！

Q：あなたはどんな基準でグループ分けを行いましたか？理由も教えてください。

感想

アクティビティ2「違いって何？」

●概要

違いについて深く考える時間とする。

自分自身の「アイデンティティ（存在証明）」に気づき、自己の存在と向き合う。また、その「アイデンティティ（存在証明）」を他者と比較することで、自己と他者の違いに気づかせる。様々な議論を通して、「国籍」や「性別」など身近にある名札の存在に気づく。また、日常生活の中で「アイデンティティ（存在証明）」について意識していることなどを通して、自らの排他性を問い直す。

「わたしが外人だったころ」を用いて、さらに広い視野で考える時間をとる。

●ねらい

「違い」をキーワードに、自己の価値観を見つけ直すことができる。

●主な対象

中学生以上

●用意するもの

ワークシート②～⑥、資料2～4（P18～23）、人物カード（CD）

●所要時間

50分×3～4時間（小学生であれば45分×3～4時間）

●用語の解説

アイデンティティ＝存在証明。自己を表す肩書きのようなものである。

例…私→中学校教諭、女、日本人、広島県民、娘、妹、1-1の担任…等

●すすめ方

| 学習活動・内容・問いかけ | 留意点（ポイント） |
|---|--|
| 「あなたを表す言葉を見つけよう。」 1. ワークシート②を全員に配布する。下記の問いについて考える。 ①自分を表す言葉を決める。 ②班の人を表す言葉を決める。 ③班の人の意見をきく。 | *言葉が見つからない生徒へは、言葉の書かれたプリントを渡す。 *言葉はいくつあっても良いこととする。 *自分の認識と、他者からの認識の違いに気付くきっかけとする。 *作成基準は自由であり、自分が思うものを記入する。 |

2. 交流の後にもう一度自分を表す言葉について考え、ワークシート②の④に記入する。

3. 1、2の活動をもとに、自分の名札をできるだけたくさん考える。

例：「女」「中学生」「日本人」「広島県民」「〇〇部の部員」「誠実」「明るい」「正直」など

その名札をワークシート②の「自分の存在証明を作ろう！」に「ポジティブ」と「ネガティブ」に分けて記入する。

4. 小グループ内でワークシートを回し、ポジティブ変換を行っていく。

資料2の「リフレーミング辞典」を配布しても良い。

*色々なアイデンティティがあることに気づく。

目安として、ここまでを1時間とすることが望ましい。

ここから2展開に分かれる。実態に合わせて選択する。どちらの展開を行ってもよい。

パターン1

5. このアイデンティティ（存在証明）の「おかげで」エピソード・このアイデンティティ（存在証明）の「せいで」エピソードを考える。

「このアイデンティティ（存在証明）のおかげで〇〇したエピソードはありますか。」や「このアイデンティティ（存在証明）のせいで〇〇と思ったエピソードはありますか。」と問いかけ、生徒のエピソードをあげてもらう。

例)

- ・「中学生」のおかげで学割が使えた。
- ・「明るい」のおかげで友達がたくさんいる。
- ・「女」のせいでバカにされたことがある。
- ・「広島県民」のせいで方言が抜けない。

その時、「無理に話をしなくてもいいです。話せる範囲でこたえてください。」と説明する。

6. ワークシート③を全員に配布する。「アイデンティティ（存在証明）」は必要？不必要？」を考え、ワークシート③に記入する。
自分の意見を発表する。

7. みんなの意見を聞いたのち、ワークシート③の「みんなの意見を聞いて…」に記入する。

パターン2

5.各班ごとに人物カードを配布する。班で話し合い、人物のグループ分けを行う。（グループの数は問わない。）

6.班ごとに発表する。
なぜそのグループにしたのか、理由や根拠を具体的に発表する。

7.ワークシート④を全員に配布する。ワークシート④の問いを考え、記入する。

8.「違う」ってなんだろう？
ワークシート⑤を全員に配布し、問いを考え記入する。

自分自身の価値と他者の価値についての違いを理解する。

人生において、名札は必要な時も、不必要な時も両方あると考える。

必要な時（例）

- ・自己紹介するとき
- ・自分を個として認識してもらおうとき
- ・価値を位置づける時
- ・グループ分けが必要な時

不必要な時（例）

- ・差別の対象となるとき
- ・グループ分けをしなくてもよいとき

*人物カードの中身は説明せず、班に配布する。
班の中で思考する時間を十分に確保する。

どちらの学習においても、「違う」がキーワードとなる。

パターン1：違うから存在証明は必要になる時がある。

パターン2：○○が違うからグループを分けた。

教師の中で、「違う」をキーワード化した上で、8に進む

「違うこと」について具体例を挙げる。
「違う人」について具体例を挙げる。

【予想される生徒のコメント】

「違う」

別・異なるもの・一緒ではない・同じではない

「違う人」

グループ分けしたときに分かれる。仲良しではない・趣味が違う・性別、国籍、宗教
など分類されるもの・考えが違う・見た目が違う

9. これまでを振り返る

自分と「違う」人にどんな風に接してきたのか
を考え、ワークシート⑤「これまでの自分をふり
返って」の欄に記入する。

これまでの自分の行動を振り返る。

大切なことは、自己のこれまでの行動をふり返り、
これからの行動の変革である。

そのため、これまでの行動について叱責などをす
ることなく、自己の行動を素直にふり返るよう促
す。

目安として、ここまでを2時間とすることが望ましい。

10. 「わたしが外人だったころ」の紹介

ワークシート⑥、資料3、4を全員に配布し、下
記の問いに対して考え、ワークシート⑥に記入す
る。

*資料3、4参照

問1

「わたしが外人だったころ」とはどのよう
な意味だろうか。

問2

資料3、4の文章を読んで、何を感じましたか。
また、あなたのこの文章を読んで、これか
らの行動で変えたいことはありますか。

11. まとめ

ふり返り

この学習全体をふり返り、ワークシート⑥「これ
までの自分をふり返って」の欄に記入する。

*生徒から出てきた言葉を用いてふり返る。この
時、これまでの学習の中での生徒の気づきを黒板
等にまとめ、生徒が自らの学びを確認できるよ
うにする。

ワークシート②

()年 ()組 氏名()

自分を表す言葉を見つけよう！

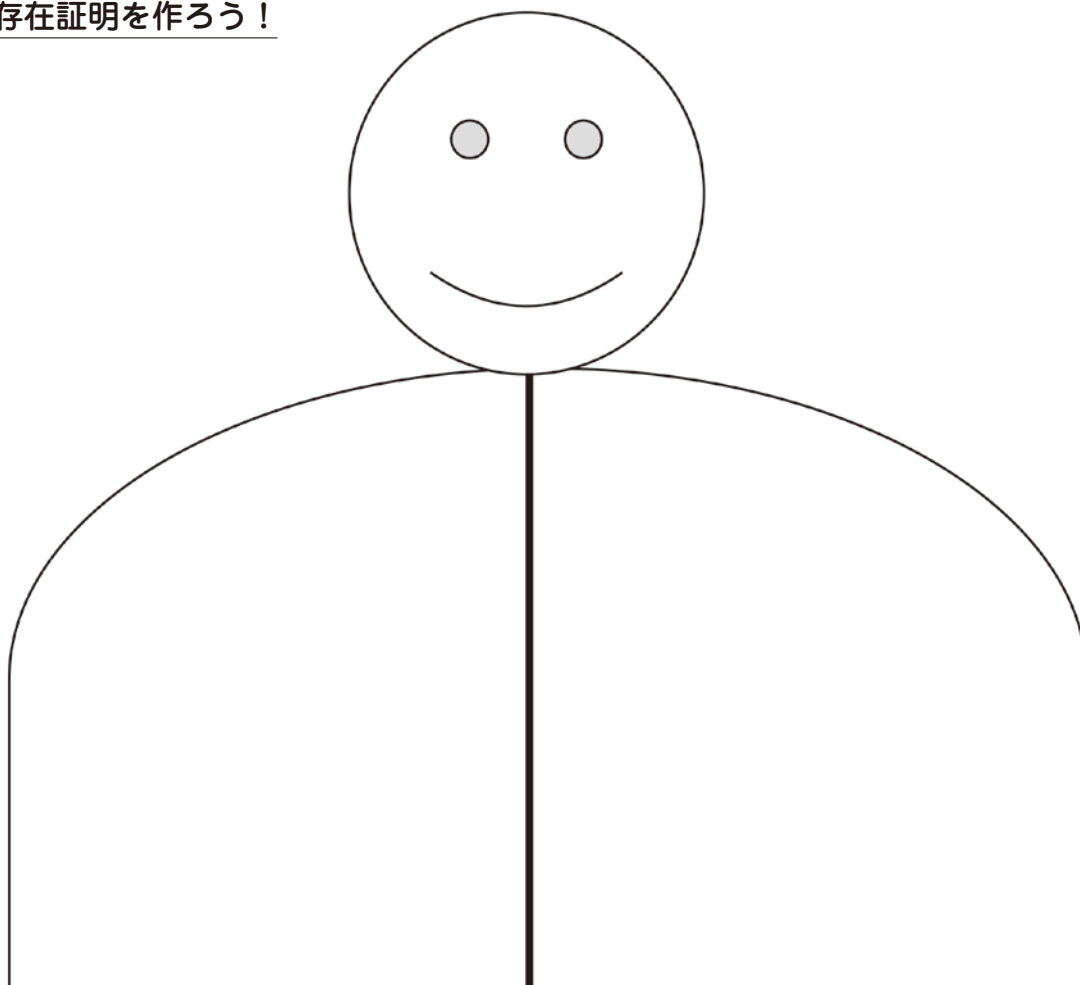
①自分で考える

②班の人を表す言葉を見つける

③班の人の意見をきく

④自分を表す言葉をきめる

自分の存在証明を作ろう！



資料2「リフレーミング辞典」

| 索引 | 書きかえたい言葉 | リフレーミングすると | 索引 | 書きかえたい言葉 | リフレーミングすると |
|--------|------------|-------------|----|----------|------------|
| あ | 甘えん坊な | 人にかわいがられる | し | 消極的な | ひかえめな |
| | 飽きっぽい | 好奇心旺盛な | | す | ずうずうしい |
| い | あきらめが悪い | 興味が広い | せ | せっかちな | 堂々とした |
| | あわてんぼ | 一途な | そ | 責任感がない | 行動的な |
| いいかげんな | チャレンジ精神に富む | た | | 外面がいい | 行動が機敏な |
| う | 意見が言えない | 行動的な | ち | だまされやすい | 無邪気な・自由な |
| | いばる | 行動が機敏な | | つ | だらしない |
| お | 浮き沈みが激しい | こだわらない | な | 短気な | 素直な・純粋な |
| | うるさい | おおらかな | | ね | 情熱的な |
| か | 怒りっぽい | 争いを好まない | の | 調子にのりやすい | こだわらない |
| | おしゃべりな | 協調性のある | | は | ノリがいい |
| き | おっとりした | 自信のある | ひ | つめたい | い・マイペースな |
| | おとなしい | 自信のある | | ふ | 生意気な |
| く | 面白みがない | 心豊かな・表情豊かな | ま | 涙もろい | 人づきあいが上手な |
| | かたくるしい | 明るい・活発な | | む | 根暗な |
| け | 勝ち気な | 元気がいい | ほ | のんきな | 考えがはっきりした |
| | カッとしやすい | 感受性豊かな | | め | のんびりした |
| こ | 変わっている | 感受性豊かな | よ | のんびりした | 心の世界を大切に |
| | 頑固な | 情熱的な | | ら | 八方美人な |
| さ | 頑固な | 情熱的な | る | 反抗的な | 協調性豊かな |
| | 気が弱い | 味のある・個性的な | | る | 無口な |
| し | 気が強い | 意志が強い | る | 無理をしている | 理想のある |
| | きつい感じの | 信念がある | | る | ぼうっとしている |
| し | きびしい | 一貫性がある | る | ま | 自分に自信がある |
| | きついな | 人を大切に | | る | ま |
| し | きついな | 我慢ができる | る | ま | い・マイペースな |
| | きついな | 情熱的な | | る | ま |
| し | きついな | 情熱的な | る | ま | 向上心がある |
| | きついな | 責任感がある | | る | ま |
| し | きついな | 自分に自信がある | る | ま | 行動的な |
| | きついな | 自分に自信がある | | る | ま |
| し | きついな | 率直な | る | ま | 穏やかな |
| | きついな | 率直な | | る | ま |
| し | きついな | うそのつけない | る | ま | 期待に応えようとする |
| | きついな | 社会的な | | る | ま |
| し | きついな | うそのつけない | る | ま | リーダーシップがある |
| | きついな | 自分の心の世界を大切に | | る | ま |
| し | きついな | している | る | ま | 自己表現が活発な |
| | きついな | 物事に集中できる | | る | ま |
| し | きついな | 経済観念のある | る | ま | 行動的な |
| | きついな | エネルギッシュな | | る | ま |
| し | きついな | 情熱的な | る | ま | こだわらない |
| | きついな | 感受性の強い | | る | ま |
| し | きついな | 相手の立場を尊重する | る | ま | 行動的な |
| | きついな | 人のためにつくす | | る | ま |
| し | きついな | 寛大な | る | ま | こだわらない |
| | きついな | 明るい・活発な | | る | ま |
| し | きついな | 元気がいい | る | ま | 行動的な |
| | きついな | ねばり強い | | る | ま |
| し | きついな | 協調性豊かな | る | ま | こだわらない |
| | きついな | 自己主張できる | | る | ま |
| し | きついな | 自分を愛している | る | ま | 行動的な |
| | きついな | 素朴な・ひかえめな | | る | ま |

ワークシート③

()年 ()組 氏名()

アイデンティティ（存在証明）は必要？不必要？

みんなの意見を聞いて…

----- 〈キリトリ線〉 -----

ワークシート④

()年 ()組 氏名()

グループ分けの時に重視したポイント

他の班の意見を聞いて…

ワークシート⑤

()年 ()組 氏名()

違うこととは?

違う人とは?

これまでの自分をふり返って

ワークシート⑥

()年 ()組 氏名()

「わたしが外人だったころ」とはどのような意味だろうか。

文章を読んで、何を感じましたか。また、あなたのこの文章を読んで、これからの行動で変えたいことはありますか。

これまでの自分をふり返って

資料3

紹介例

「わたしが外人だったころ」というフレーズは本のタイトルです。作者は鶴見俊輔さんの体験をもとに書かれたものです。鶴見さんは1922年生まれで2015年に亡くなりました。鶴見さんは15歳の時渡米し、アメリカで戦争を迎えます。その後、戦時交換船で日本へ帰国しました。

渡米したときは、アメリカでは日本人という立場であることから自分自身を「外人」と感じていました。帰国後も、敵国のアメリカ人を憎めないことやアメリカ生活の長さから、日本人のなかで「外人」として生きてきたことで、自分自身を「外人」と感じていました。そんな鶴見さんの経験から、皆さんに学んでほしいことがあります。

資料4

「わたしが外人だったころ」P40より

地球の人口は72億人。日本国民の人口は1億2千万人です。

地球上の人間全体の中で、日本人にとっては、外人のほうが多い。日本人は、外人にとりかこまれて、この世界でくらしているのに、日本本位に考えるのでは、わたしたちは地球上に住みにくくなります。

おわりに

100人が学べば100通りの感想や気付きがある。どれかが正解ではなく、どれも正解であるという考えが大切である。学習者のみならず、教える側の教師にも学びのチャンスであると考え。この学習をしたことで、まずは最初の一歩を踏み出したことに大きな意味があると思う。

自分自身と向き合うこと、振り返ることが多い学びの内容となっている。苦手意識を持っている学習者も多いだろう。意見がまとまらなくても、考えることや向き合うこと自体に大きな意味がある。学習者一人一人にとって、最初の一歩となることを願っている

参考・引用文献

『同級生は外国人！？』 1～3 (吉富志津代／汐文社)

『わたしが外人だったころ』 (鶴見俊輔／福音館書店)

〈アクティビティ1〉

「お願い、協力して！」 (『地球市民を育む学習』 P148～、グラハム・パイク、ディヴィット・セルビー共著、中川喜代子監修・阿久澤麻理子訳／明石書店)

〈アクティビティ2〉

「みんなでリフレーミング」 (『エンカウンターで学級が変わるPart3 中学校編』 P82～、中里寛・國分康孝監修、大関健道・藤川章・吉澤克彦・國分久子編集／図書文化)